

プロジェクト課題No.4

水稲乾田直播栽培技術の定着による 大規模土地利用型経営体の基盤強化

活動期間: 令和6年度～令和7年度

対象者: (有)ITO、(株)高橋グリーン、(農)アグリ今泉、(農)若木の里、みどりあーと山崎(株)

チーム員: 八木沼湧太、今関美菜子、大越那津季

課題の背景・ねらい

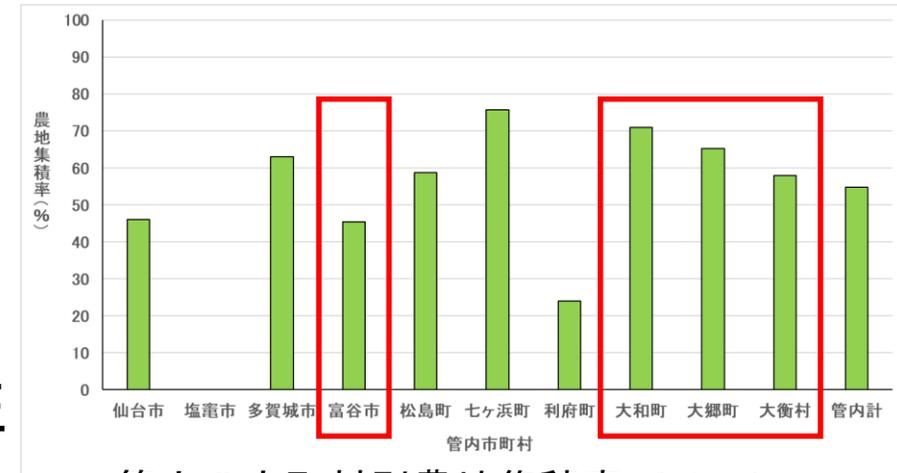
- ・農地集積により法人の規模が拡大
- ・限られた人員、時間、資材の中で経営規模拡大に限界感
⇒ 水稻栽培の省力化、効率化が喫緊の課題に
⇒ 水稻乾田直播栽培の取組面積拡大による解決

育苗施設が足りない

田植えや育苗管理の時間が足りない

◎ 乾田直播栽培の面積拡大への課題

- ・収量の安定化、栽培技術の習熟
- ・作業省力化効果の具体的な数値等が不明確
- ・スマート農業活用による更なる効率化の可能性



管内の市町村別農地集積率(令和4年度)

課題の背景・ねらい

○対象者について

- ①(有)ITO (R6乾直面積 15ha/水稻経営面積 約50ha)
 - ・乾直導入4年目で地域のリーダー的存在
 - ・スマート農業機器を多く導入しており、可変施肥など実施可能
- ②(株)高橋グリーン(6.3ha/約9ha)
 - ・乾直導入4年目、昨年雑草防除に失敗したほ場あり
- ③(農)アグリ今泉(3.3ha/約7ha)
 - ・乾直導入2年目、大豆後作で乾直取組み意向あり
- ④(農)若木の里(2.6ha/約40ha)
 - ・乾直導入2年目、育苗施設不足、乾直栽培技術に不安あり
- ⑤みどりあーと山崎(株)(0.9ha/約44ha)
 - ・乾直導入1年目、労働時間を短縮するため乾直拡大意向あり



管内図とほ場位置

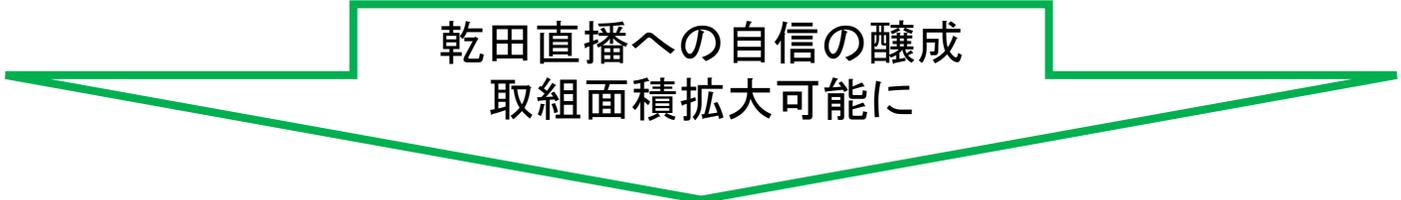
地図出典: 国土地理院

<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

課題の背景・ねらい

【定性的目標】

- 移植栽培と同等の収量を確保できる技術の習得
- 乾直栽培の導入により春作業の労働負荷の平準化
- アグリテックを活用し、更なる省力化や生育ムラの解消による増収等を達成



乾田直播への自信の醸成
取組面積拡大可能に

【定量的目標】

- 対象5法人の乾直取組面積

R5(基準): 14ha → R6: 25ha → R7: 35ha



将来的な経営面積拡大も可能に

活動内容

○基本技術習得支援

- 新規取組者への播種作業支援、生育調査ほの設置、巡回指導

○乾直導入による省力化確認

- 作業時間聞き取り、移植栽培及び湛水直播栽培との作業時間比較

○アグリテックの効率的な活用支援

- アグリテック活用状況聞き取り、課題解決支援



播種の様子



生育調査の様子

これまでの活動成果

○基本技術習得支援

- 入水期まで除草剤散布のタイミングや出芽状況について重点的に指導
- 生育調査等を行い、生育経過を随時伝達、栽培管理について助言
- 東北農業研究センターから講師を招き現地検討会を開催



- 除草剤の適期散布により初期成育が確保された
- 雑草の発生状況に応じた栽培管理の実施
- 検討会では、日頃の疑問点や栽培管理のポイントについて確認



出芽確認の様子



現地検討会の様子

これまでの活動成果

○乾直導入による省力化確認

- ・みどりあーと山崎へ聞き取りを実施、各栽培法の作業時間について整理中

○アグリテックの効果的な活用支援

- ・ITOでザルビオ®フィールドマネージャーを活用要望があったため、アグリテックアドバイザー派遣制度で専門家を派遣



- ・若手従業員へ指導し、アグリテック活用への意欲が見えるなど今後の活用に弾みがついた

※ザルビオ®フィールドマネージャー...衛星画像とAI分析による栽培管理支援システム



専門家派遣の様子

今後の対応(予定)

○基本技術習得支援

- 適期刈取りについて巡回指導
- 生育調査ほにおける収量調査
- 総合検討会の開催

○乾直導入による省力化確認

- 作業時間を整理し、総合検討会で情報提供
- 新規取組み希望者への参考資料とする

○アグリテックの効率的な活用支援

- ザルビオ®の事後支援、来年度の活用検討等
- 他法人への活用支援